

育苗後期～定植までの管理について

JA今金 農業経営課
北海道糖業(株) 道南製糖所 原料課

1. 育苗管理

- (1) 育苗後期は苗が乾き過ぎないように灌水する（過乾燥になると苗枯病や紙筒分離不良の要因、過湿になると苗の徒長、斑点細菌病発生の助長となるので注意する）。
※ペーパーポット分離障害を防ぐために育苗期間を通じ、ポットが乾燥しないように気を付けましょう。
- (2) 苗は定植7～10日前頃より
 - ① 苗を外に出す
 - ② ハウスのビニールをはく等の手段で外気に十分に慣らしてください（ハードニング）。
（ハードニング中に苗が凍結した場合、シート等で日陰を作り自然乾燥させる）
また、リボルタは抽苔軽減のため、苗を外に出してのハードニングは控えてください。
- (3) 斑点細菌病の発生が見られたら、下記の通り早急に防除を実施してください。

<1ha（60冊）当り>

薬 剤 名	散布方法	倍率	薬量	水量	総使用回数	備 考
カミボルド-又は カッパ-ソ水和剤	噴霧器使用	800倍	3.75g	3ℓ	5回 ※圃場使用含む	散布水量:50ml/1冊

2. 定植前の苗床灌水

灌水は定植3日前から（全自動移植機の場合は4日前）20～30ℓ/冊の灌水を数回に分けて（時間をかけて）実施後、定植前日か直前に下記の要領で薬剤処理を実施してください。

<10a（6冊）当り>

	適 用	薬 剤	薬量	倍率	水量	備 考
定植 前日	殺虫剤 (選択)	ダントツ水溶剤	30g	200倍	6ℓ	いずれか1剤を使用し て下さい
		アクタラ顆粒水溶剤	60g	100倍		
	根腐病	モンセレン顆粒水和剤	30g	200倍		
	弁当肥え	北糖 液肥	170ml	35倍		

注1) 灌水後は必ず、6冊当り1ℓの水で水洗いする（薬害防止）。

注2) 薬剤使用の際には必ず散布器具を十分に洗浄してください。

3. 定植時の注意点

- (1) 苗の鎮圧は活着を早めるため実施する。
- (2) 定植は風害予防のため浅植えにしない。
- (3) 定植予定日の翌日に低温（最低気温が-5度以下）が予想される時は、定植を中止する。

4. 排水対策

生育初期の湿害は、著しい生育停滞を招きます。
明渠・暗渠の点検及びプラソイラの施行、又、定植後速やかに畦間サブソイラまたは深耕カルチ
チを実施してください。